

演題名：先を見据えた不妊治療情報提供に基づく治療終結意思決定支援

森分純子<sup>1)</sup> 小松原千暁<sup>1)</sup> 辻勲<sup>1)</sup> 福田愛作<sup>1)</sup> 森本義晴<sup>2)</sup>

1) IVF 大阪クリニック 2) HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】

不妊治療を受けても、希望通りに妊娠・出産できない現実がある。われわれは、先行研究で夫婦が不妊治療以外の選択肢について情報を知り、治療終結後の選択肢を考えられる支援が必要と報告した。今回の研究では、患者会を通して、患者が求める情報の種類や情報の提供時期、意思決定についてのサポート、治療終結への道筋について検討した。

【方法】

2016年6月～2023年3月に患者会を15回開催した。内容は、医師から女性の妊孕性や不妊治療の現状、看護師から卵子提供・養子縁組に関する情報を提供し、ディスカッションを行った。参加者179名にアンケート調査を実施した。本研究は当院倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】

125名から回答が得られた。患者の平均年齢41.2歳、平均不妊期間4年5か月であった。参加理由は、「情報が欲しかった」87名、「内容に興味があった」62名であった。その内容は「卵子提供」64名、「養子縁組」64名で、提供希望時期は、「女性の年齢と妊孕性」101名、「卵子提供」55名、「養子縁組」52名の方が治療前から直後に掛けてであった。相談相手は、夫が最も多く、次いで医師・看護師であった。患者会に参加した後の不妊治療について、「受ける治療の期間・回数を決めたい」73名、「積極的に治療に取り組みたい」26名であった。患者会終了後に更なる情報提供を求め、看護師の相談室を30名が利用した。

【結論】

患者は、卵子提供、養子縁組などの情報を治療開始前後から求めていることがわかり、患者が求める時期に情報提供できる機会を設けることで、夫婦が先を見据えて今後の治療を選択することに繋がる。個別や患者会での情報提供希望も多く、相談の場が求められていることがわかった。今後も定期的に患者会を開催し、正確な情報に基づいた自己決定ができるように支援を行いたい。